

大洲市を守る消防団員の活動や取り組みを、シリーズでご紹介します。

中川消防団長が「大切な市民の命と財産が火災によって失われることなく、笑顔で新年を迎えても

年末夜警は、毎年12月28日から30日までの3日間、火災予防の徹底を図ることを目的に行われています。



中川消防団長訓示

年末年始を迎えるにあたり恒例となっている「年末夜警出発式」が12月28日(水)、消防団員および消防署員約50人が参加し、市役所前駐車場で実施されました。

「大切な市民の命と財産を火災から守ろう」 大洲市消防団年末夜警出発式

「年末年始を迎えるにあたり恒例となっている「年末夜警出発式」が12月28日(水)、消防団員および消防署員約50人が参加し、市役所前駐車場で実施されました。

期間中、消防団は、午後8時から午前2時まで消防車による火災予防の広報活動などを行いました。

この期間に限らず、一人ひとりが日ごろから火の取り扱いには十分注意し、大切な命と財産を守りましょう。



各地域へ出発

文化財

シーボルト筆処方箋12枚
大洲市指定有形文化財(書跡)
大洲市所有



当処方箋は、シーボルトの最後の門人で、のちにシーボルトの孫娘高子と結婚した三瀬諸淵がシーボルトより譲り受けたものです。シーボルトは、文政6年(1823)、オランダ商館の医師として初来日すると、長崎の郊外に診療所兼私塾の「鳴滝塾」を開設し、多くの門人を育成しました。

当処方箋には、コレラなどの急性胃腸炎や胃酸過多症などに対する薬の処方が記されています。12枚のうち3枚にはシーボルトの直筆の署名が記され、シーボルトが実際に日本人患者を診察していたことをうかがわせます。シーボルトの処方箋は、全国でも長崎に6枚と大洲に12枚だけが残されている大変貴重なもので、幕末の医学を知るうえで重要な資料といえます。

(平成14年3月26日指定)

野鳥

ソウシチョウ(相思鳥)
スズメ目 チメドリ科
全長 15cm



本来は、中国南部からヒマラヤにかけて生息する、スズメぐらいの美しい小鳥です。江戸時代から愛玩用に持ち込まれ、野生化したものが1980年代に本州や九州で繁殖地を広げました。2000年ごろには四国にも広がり、冬期は市内の平地でも出没するようになりました。渡りはしない鳥なので、日本に入ってきたのは全て人の手によるものです。また、ウグイスなどの生息域を奪うため、特定外来種に指定されています。

草花にはじまり哺乳類に至るまで、「かわいい」「珍しい」といった理由で輸入され、不要になれば置き去りにされてきました。その結果、新天地に放された生き物は、子孫を残そうと、爆発的に増えるそうです。色や姿は本来の環境を生き延びてきた結果で、無理やり別の場所に連れていくのは非常に酷だということを、みなさんに知ってほしいと思います。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

国土交通省大洲河川国道事務所・山鳥坂ダム工事事務所だより

鹿野川ダム選択取水設備完成見学会を開催しました

平成28年12月1日(木)に、鹿野川ダム選択取水設備の運用を開始しました。今回新設された連続サイフォン式選択取水設備によって、ダム湖から取水する際の水深を選ぶことが可能となり、下流の河川に、より状態の良い水を流せるようになりました。

12月18日(日)には完成見学会を開催し、多くの方に見学いただきました。山鳥坂ダム工事事務所では、随時見学会を実施していきますので、ぜひお越しください(要事前予約)。

鹿野川ダム改造事業は、平成30年度の完成を目指し、事業進捗を



模型を用いた選択取水設備の説明

図ついているところであり、今後ともご理解、ご協力をお願いします。



選択取水設備内見学

山鳥坂ダム工事事務所 フェイスブックページを開設しました

事務所管内で開催されるイベントなどのお知らせを情報発信していますので、ぜひご覧ください。事務所ホームページのバナーもしくは左記URLからアクセスできます。

<https://www.facebook.com/mlit.yamatosakadam>

【問い合わせ先】

山鳥坂ダム工事事務所

☎343000 (担当:吉岡)

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

梅のつぼみが、なんともかわいらしい季節になりました。2月と言えば節分です。他市町でも見られる光景ですが、大洲市でも、節分に大豆を街角に置きに行くという風習がある地域があります。

自分の年齢数の大豆を紙に包み、近くの十字路に置きに行きます。家に帰るまで無言で、後ろを振り返っては駄目だと聞かされて、怖い思いをしたのを思い出します。

【今月のクイズ】

上記の節分の風習のなかで、家に帰るまで無言で、後ろを振り返ってはならないのはなぜでしょうか。

- ① 振り向くと厄が帰ってくるから
- ② 鬼が見つかるから
- ③ 恵方巻と同じでしゃべると運が逃げるから



【先月号のクイズの解答・解説】

雲海スポットとして雲海公園と名付け、整備している場所があります。それはどこでしょうか。

- ① 神南山
- ② 高山
- ③ 藤縄

正解…③

解説…地域づくり団体である「^{ひふみ}木林森夢倶楽部」が中心となり、雲海公園を管理しています。実はこの雲海公園の施設で、宿泊することができます。暖房や岩風呂を備えているので、夜集合して、朝一番に雲海を見ることができます。

ただし、気象条件がそろわなければ雲海は発生しません。運だめしに宿泊してみたいかがでしょうか。



※今月のクイズの答えは、広報大洲3月号に掲載します。

プロから教わる野球の技術と心

一般社団法人プロ野球愛媛県人会主催による「第3回プロ野球愛媛県人会野球教室」が12月28日(水)、八幡浜・大洲地区運動公園野球場で開催されました。

この野球教室は、県内の子どもたちに夢や希望を持って練習に励んでもらえるよう、愛媛県出身(県

内高校出身者含む)のプロ野球関係者が中心となって実施されています。

この日は、阿部健太スカウト(東京ヤクルトスワローズ)、赤松幸輔捕手(オリックス・バファローズ)、安樂智大投手(東北楽天ゴールデンイーグルス)の3選手が参加し、南予地域から集まった約220人の子どもたちが指導を受けました。

最初に子どもたちは、基本であるキャッチボールの一つ一つの動作をていねいに教わりました。その後、ポジションごとに分かれて行った練習では、少しでも自分の腕を磨こうと、アドバイスを熱心に聞いていました。

安樂投手は「私も小学校のころに野球教室に参加して、勉強になった。夢はかなうと信じて頑張っていた。夢はかなうと信じて頑張っていた」と話していました。



気持ちを込めて筆に集中

第49回大洲市小中学生新春書き初め会が1月6日(金)、喜多小学校で開催されました。

文字の上達を願い始まったとされる書き初めは、「新しい年がよい年になりますように」との願いも込められています。

書き初め会に参加した市内の小学3年生から中学3年生までの約250人は、学年ごとに決められた課題文字に真剣に取り組み、正確な文字を丁寧に書く書写能力の向上を図りました。



おいしいイチゴ いただきます

観光いちご園の開園に先立ち地元保育所児童によるイチゴ狩りが、12月12日(月)徳田いちご園で、12月26日(月)川本いちご園で行われました。

徳田いちご園に招待された肱北保育所児童23人は、大きなイチゴを手を持ち「甘くておいしい、幸せ」とみんな笑顔で食べていました。

徳田いちご園の徳田智士さんは「今年のイチゴは昨年より小さいがとてもおいしく育ったので、たくさんの人に食べてほしい」と話していました。



国体リハーサル大会に協力

7月～11月に開催された「えひめ国体競技別リハーサル大会」において、会場へのプランター運搬に協力いただいた愛媛県建設業協会喜多支部に12月21日(水)、市役所で感謝状が贈呈されました。

贈呈にあたり清水市長は「協会の協力なしではできなかった。来年の大会は、もっとたくさんの人に来てもらいたい」と話しました。

市内小中学校や協力者の手で大切に育てられた花は、会場を訪れた来場者を華やかに迎えました。



優良工事を表彰

市の工事において他の模範となる優良な工事を施工した業者を表彰する、平成28年度大洲市優良工事表彰式が12月21日(水)市役所で行われ、上田建設株式会社と向井建設が表彰されました。

清水市長は「優秀な工事が市の発展と安心安全なまちづくりにつながる」と述べ、二社を代表して上田建設株式会社の代表取締役から「今後も技術の研さんに努め、郷土発展のため一層努力していく」と謝辞がありました。



笑いとお熱演で被害ストップ

大洲警察署が製作した高齢者特殊詐欺被害防止などの啓発用DVDが12月19日(月)、大洲市と内子町に贈呈されました。

「あんた、それ、騙されとるぜ」と題したDVDには、署員若手有志による啓発劇団「OKB（大洲警察署パディの略）」が出演し、特殊詐欺被害防止などのアドバイスが、ユーモアを交えて盛り込まれています。DVDは、今後両市町の各地域で活用される予定です。



地震発生に備えて ～シェイクアウトえひめ～

地震を想定して参加者が身を守るための安全行動をとる「シェイクアウトえひめ」が12月19日(月)、県下一斉に行われました。

おおず赤煉瓦館では午前11時の訓練放送に合わせ、職員の指示で観光客が机の下に入り「姿勢を低くして、頭を守り、動かない」安全確保行動をとりました。南海トラフ地震などが発生したとき、被害を最小限に抑えるため一人ひとりがどのように行動するかを考え、防災意識の向上を図りました。



今年も県新記録で第1位

第29回愛媛県小学校陸上運動記録会で、400メートルに出場し県新記録で1位になった、大洲小学校6年生の後藤夏暖さん、後藤夏凜さん、二宮京香さん、中岡茉友さんの4人が教育長表彰を受けました。

表彰状を受け取った二宮さんは、「このような表彰をしていただき感謝しています」と話し、二宮教育長は「昨年の男子に続いての新記録、おめでとう。今後もいろんなことにチャレンジしてください」と、激励の言葉を送りました。



手打ちそばで交流会

大洲農業高等学校生徒と老人保健施設フレンド利用者との交流会が12月27日(火)、同施設で行われました。

デイケアサービス利用者約35人の前で大洲産そば粉を使ったそば打ちを披露した上田大貴さんは「人前でのそば打ちは緊張したが、おいしく食べてもらえてうれしい」と話しました。打ちたてのそばを食べた利用者は「上手にできていて、とてもおいしい」と、少し早い年越しそばを味わいながら、交流を深めました。



えひめいやしの南予博2016閉幕 そして、「えひめいやしの南予」へ

南予地域の食や自然、歴史文化など、さまざまな魅力を発信した観光振興イベント「えひめいやしの南予博2016」が閉幕しました。平成28年3月26日から約8カ月にわたり319のイベントが実施され、約193万人が来場しました。

大洲市では、「南予プレミアムダイニング」、「なんよ手しごとマルシェ」、「南予収穫祭サローネ・デル・ナンヨ」などのコアイベントや、市を知り尽くした案内人とともに大洲の歴史を紐解くまち歩きイベント「おおず歴史華回廊」などが実施されました。また、南予博の中核であった地域住民グループ手づくりの体験プログラム「自主企画イベント」は21プログラムが実施され、市内全体で約32万人が来場しました。

南予博の閉幕は一つの区切りであり、次へのステップへのスタートとなります。11月20日(日)、宇和島市で開催されたクローゼンイベントのシンポジウ

ムでは「いやしの南予宣言」がなされ、南予博の成果を継承し、おとずれた人たちが心も体もリフレッシュして愛顔になれる「いやしのふるさと」として、地域が一丸となって「いやしの南予」を磨き上げていくとともに、これから先も、その魅力を広く発信していくことが宣言されました。



いやしの南予宣言